

# 覚一本平家物語の文頭語に見る文章の展開 ——延慶本との比較から——

中 里 理 子

## 1. 本稿の目的

平家物語諸本は語り本系と読み本系に大別され、諸本の文体の特徴についてさまざまな研究がなされている。筆者も先に擬音語・擬態語を取り上げ、語り本系の覚一本と読み本系の延慶本の違いについて語彙の面から論じた<sup>(1)</sup>が、今回は文頭語を取り上げ、文章の展開について考えてみたい。各文の冒頭にある文頭語を調査し、文章がどのように接続し展開していくかを大きく捉えることを狙いとする。「洗練された文体」<sup>(2)</sup>と評される覚一本に焦点を当て、読み本系の延慶本と比較することで覚一本における文章の展開の特徴を明らかにしたい。

なお、語り本系（覚一本）と読み本系（延慶本）の違いを検討するに加えて、それぞれの地の文と会話部分の違いを検討することで、会話文の展開と文章の展開の違いを明らかにする手がかりが得られることを目指している。

## 2. 平家物語の接続語に関わる先行研究

文章の展開に関わる研究に、平家物語の接続語を研究した菅原（1993）

---

(1) 拙稿（2012）「平家物語の擬音語・擬態語—延慶本、覚一本、百二十句本の比較から—」『上越教育大学研究紀要』31巻

(2) 小川栄一（2008）『延慶本平家物語の日本語史的研究』（勉誠出版）p.22

(1995a)がある。菅原は延慶本と覚一本の接続語を抽出し、「累加」「逆接」など接続の種類ごとに丁寧に整理したうえで、覚一本では和文語の比率が高く、読み本系統の延慶本では漢文訓読語の比率が高いことを明らかにした。本稿では、接続詞に副詞等も加えて対象を広げ、和語と漢文訓読語という視点以外の面から特徴を考えることとする。

具体的な接続詞を対象とする研究に、菅原(1995b)、濱千代(2007)がある。菅原(1995b)は、延慶本の中で「サルホドニ」「サテ」など多用される接続語を取り上げ、文の展開について考察している。濱千代(2007)は覚一本の「さて」「さては」「さても」を取り上げ、副詞・接続詞・感動詞という用法の内訳と使用度数を出している。また、岡崎(2010)では、覚一本と延慶本の指示詞の違いに触れている。

これらの研究から、平家物語の文頭語にはいわゆる「指示詞系接続詞」<sup>(3)</sup>が大きな役割を果たしていることがわかる。本稿では接続語に限定せず文頭語句をすべて調査対象とするが、分析に当たっては「指示語」および「指示詞系接続詞」を中心に見ていく。

### 3. 段落冒頭語の比較

まず、平家物語全体の文章展開の様相を見るために、段落の冒頭に位置する語を見ていく。全12巻(覚一本の灌頂の巻を除く)の段落冒頭語を調査し、巻ごとに覚一本と延慶本で対照させたものを稿末資料1に示した。対象は地の文、会話文に当たる文章であり、願文、牒状などの書状や祝詞は含まない。また、ここで調査した段落は以下の本文の段落分けに従った。段落の冒頭は一字下げの箇所とし、会話文の冒頭であっても段落冒頭とみなした。

・覚一本平家物語：日本古典文学全集『平家物語』(1)(2)(小学館)

(3) この用語は岡崎知子(2011)の用語に倣ったものである。

・延慶本平家物語：『校訂延慶本平家物語』（一）～（十二）（汲古書院）  
対照表を作成するに当たっては以下の①～⑤に分け、表中で区別して示した。

- ① 日時に関する語句：「治承元年五月五日」「同三日」など日時を明示したものに加えて、「去んぬる～」「比は○月○日のことなれば」「其比」「夜になりて」「あけぬれば」など時の経過を表す語句や、「昔」「或時」など物語の時間軸の関係性を表す語句をこの項目に含めた。
- ② 指示語：「此の」「彼の」「其の」「さ（のみ）」など、「こ」「か」「そ」「さ」で始まる指示語を伴う語句を数えた。
- ③ 指示詞系接続語：「是のみならず」「かくて」「其後」「さて」「しかるを」など、指示語を伴って接続語的な働きをする語句を数えた。
- ④ 接続語的な副詞：「或いは」「抑も」「ただし」「中にも」「又」など、前段と後段の関係を表す点で接続語的な働きをする語句を取り出して数えた。また、「やがて」「しばしあって」など時の経過に関わる語句も含めた。
- ⑤ その他：上記以外の語句をすべてこの項目に数えた。多くは人名などである。

以上の基準に従って整理したのが資料1である。覚一本と延慶本を見比べると、延慶本の段落数が覚一本より二～三倍多いためか、段落冒頭語の種類も多く見られる。その中で、日時に関する語句に関しては覚一本のほうが割合が高くなっている。今、その割合だけを以下に示す。（数字は％を表す。小数点以下第2位を四捨五入。以下同じ。）

本 卷	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
覚一	10.9	17.9	21.7	33.3	24.1	42.6	25.4	31.5	19.1	28.3	25.0	20.9
延慶	22.1	17.6	23.7	21.1	17.9	33.5	26.7	16.4	9.8	32.4	17.6	15.8

上の表を見ると、12巻中8つの巻で覚一本のほうが割合が高くなっている。巻によっては延慶本の割合が高いので、内容の検討も加えるとなおよいと思われるが、今回はおおまかな傾向を見ていくため内容の分析は行わない。

次に、指示語と指示詞的接続語を見ると、覚一本の割合が比較的高くなっていることに気づく。そこで、資料1に示した中で②指示語に当たるもの（たとえば覚一本巻1は「此の1／彼の1／其の3」）と③指示詞系接続語（たとえば覚一本巻1は「是によって1／かくて5 かかりし程に1／其上1 其後1／さて1 さる程に7／しかるを1」）を合計し、その割合を算出した。（たとえば覚一本巻1は合計23語、全体数64語で、35.9%となる。）

以下に指示語と指示詞的接続語を合計した数の割合を示す（数字は%）。

本巻	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
覚一	35.9	23.9	25.0	22.8	22.2	19.7	23.8	13.0	14.7	22.6	19.1	30.2
延慶	29.8	16.0	21.5	20.6	29.5	24.7	15.7	24.3	28.8	18.9	18.8	24.8

上の表を見ると、12巻中8つの巻で覚一本のほうが割合が高くなっている。全体を通してみると、覚一本は指示語および指示詞系の語によって前段の内容を受けながら話を展開させる傾向にあると考えられる。

また、前段と後段の関係の示し方を見るために、因果関係と逆接の2種類について割合を見た。指示詞系接続語と接続詞的な副詞の中で因果関係を示している語句、逆接関係を示している語句を出現数とともに以下に挙げる。

〈因果関係〉

【覚一本】 是によって1 されば1 さてもあるべきならねば3  
しかればすなはち1

【延慶本】 依之2 爰以1 カカリケレバ8 カクテアルベキナラネバ1  
サテモアルベキナラネバ1 サレバ10 サレバニヤ1  
サレバトテ1

〈逆接〉

【覚一本】 しかるを2 かかりしかども1 さりながら1

【延慶本】 是ニモ憚ラズ1 カカリケレドモ1 サリトテ1 サレドモ4  
サリケレドモ1 而ニ1 而ヲ1

両本とも因果関係、逆接ともに非常に少なく、特に逆接の語句はほとんど見られなかった。延慶本は因果関係を示す語句が覚一本より多く見られる。

以上、日時に関する語句が覚一本に多いこと、前段を受ける指示語および指示詞的接続語が覚一本に多いこと、逆接を示す語句は両本ともにほとんど見られず、因果関係を示す語句は延慶本のほうが多いことの三点から、覚一本は事柄の論理関係を示しながらではなく、時間の経過を中心として文章を展開していると言える。

#### 4. 巻二の文頭語の比較

段落の冒頭語で大まかな傾向を見たので、次にさらに詳しく文の展開の傾向を見ていくために、各本巻二の文頭語を調査した。巻一は物語全体の冒頭であり、先の調査で日時に関する語句に偏りがあったため、巻二を調査対象とした。牒状や願文などの文書や祝詞を除く部分を取り出し、地の文と「」の部分（ほぼ会話文）に分けて文頭語を抽出した。文頭語を以下に分類して示したのが、稿末資料2である。この資料を基に文頭語をいくつかの点から検討していく。表の作成に当たっては以下の①～⑪に分けた。

① 場所を表す語句：「加賀国に」「大講堂の庭」「宿所には」など場所を

表す語句を数えた。

- ② 日時に関する語句：第3項段落冒頭語の比較で調査した「日時に関する語句」と同様である。
- ③ 人物を表す語句：「西光」「新大納言」など人物を特定するものに加えて、「大衆」「侍共」など人を表す語や「われ」「御辺」などの人称代名詞を数えた。
- ④ 形容詞・形容動詞：「心細う」「痛ましき」などの他、「いたう」「とうとう」など副詞的なものも数えた。
- ⑤ 感動詞：「あは」「あはれ」「あな」などの感動詞を数えた。
- ⑥ 疑問詞：「など」「いかに」「何事」など疑問詞を含む語句を数えた。
- ⑦ 以下に挙げる「接続助詞的な副詞」以外の副詞：「只」「誠に」「いまだ」「定めて」など、下の⑩に挙げた以外の副詞を数えた。
- ⑧ その他：「素絹の布」「恩」などの名詞や「奏すべき」「急ぎ」など動詞で始まる語を数えた。
- ⑨ 指示語：第3項段落冒頭語の比較で調査した「指示語」と同様である。
- ⑩ 指示詞系接続語：第3項段落冒頭語の比較で調査した「指示詞系接続語」と同様である。
- ⑪ 接続詞的副詞：「則ち」「仍って」など前後の文の関係を表すものを数えた。「先づ」「次に」など順序を示す語句、「良<sup>や</sup>あって」「しばしあって」など時間のつながりを示す語句も含めた。

まず、先に段落冒頭語で見た因果関係と逆接の語句について見てみたい。以下、各本から抽出した語句を挙げる。なお覚一本で抽出した文頭語総数は地の文446、「」部分486であり、延慶本は地の文717、「」部分988である。(数字は用例数を示す。以下同じ。)

〈因果関係〉

- 【覚一】 {地} これによって2 かるがゆゑに1 それよりして1  
 それよりしてこそ1 されば2 さればにや3  
 さてもあるべきならねば1 仍て1
- {会話} ここをもって1 其故は1 其儀ならば3  
 其儀にて候はば1 されば6 さればこそ2 しかれば2
- 【延慶】 {地} 是ヨリシテゾ1 此事ニヨリテ1 依之3  
 カカリケレバニヤ1 其故ハ1 サレバ2 サレバトテ1  
 サレバニヤ1 サテモ有ベキナラネバ1
- {会話} 依之4 以是1 カカリシカバ1 其儀ナラバ1  
 其ヨリ1 其ヨリシテ1 サレバ19 サレバコソ1  
 然者1 所以ニ(故ニ)3

〈逆接〉

- 【覚一】 {地} されども6 さりながらも2
- {会話} されども4 さりとも1 さりながらも1 しかるを1  
 しかれども2 但し2
- 【延慶】 {地} サレドモ5 サリトモ1 然レドモ1
- {会話} サレドモ4 サリトモ3 シカラズトモ1 雖然2  
 而ニ1 而ヲ3 而ドモ4 但シ6

母数が異なるので割合を出してみると、因果関係は覚一本の地の文が2.7%、「」部分が3.3%、延慶本の地の文が1.7%、「」部分が3.3%となる。逆接は覚一本の地の文が1.8%、「」部分が2.3%、延慶本の地の文が1.0%弱、「」部分が2.4%となる。文頭語で比較すると、覚一本のほうが割合がやや高くなっている。両本とも「」で示される会話部分のほうが地の文より多くなっており、会話では事柄の関係を示す語句が使われる傾向がある。

また地の文だけ見ると、いずれもわずかではあるが覚一本のほうが割合

が高いことから、語り本系の覚一本と読み本系の延慶本の文体の違いが文頭語にも現れていることが窺われる。

事柄の関係性という点から見ると、覚一本は延慶本と比べて副詞や接続語によって関係性を明確に示している箇所がいくつか見られる。以下に例を挙げる。(省略部分は…で示す。下線は筆者による。)

例1 【覚一】 (…) あまりなる御政とこそおほえ候しか。さればいにしへの人々も、『死罪をおこなへば、海内に謀反の輩たえず』とこそ申し伝へて候へ。

【延慶】 (…) 余ナル御政トコソ覚候シカ。古人ノ被<sub>レ</sub>申候シハ、『死罪ヲ被<sub>レ</sub>行バ、謀反ノ輩絶ベカラズ』ト。

例2 【覚一】 此後も、荒き風をばまづふせぎ参らせ候はんずるに、たとひ教盛こそ年老いて候とも、わかき子共あまた候へば、一方の御固には、などかならで候べき。

【延慶】 是ヨリ後ナリトモ、荒キ風ヲバ先防ムトコソ思給へ。教盛コソ今年罷ヨリテ候ドモ、若者共アマタ候へバ、御大事モ有ム時ハ、ナドカ一方ノ御固トモナラデ候ベキ。

例3 【覚一】 (…) かた時も忘れ参らせ候はず。縦ひ此身はいかなる目にもあひ候へ、

【延慶】 (…) 肝ニ銘テ忘ラレ候ハズ。今此仰ヲ承ル上ハ、身ハ何ニ成候トテモ、

例4 【覚一】 (…) 男になして君へ参らせんとこそ思ひつれ。されども、今は云ふかひなし。

【延慶】 (…) 御所へ進セムトコソ思シカドモ、今ハ其事云甲斐ナシ。

以上はすべて会話文の例である。いずれも覚一本にのみ接続詞や副詞が使われている。例1は因果関係を示す「されば」が延慶本には書かれてい



ない。例2は「たとひ～とも」と呼応している箇所だが、延慶本では逆接の助詞「ドモ」だけで表されている。例3は「縦ひ～已然形」の箇所が、延慶本では助詞「～トテモ」で表されている。例4は覚一本は「こそ～已然形」(逆接)にさらに逆接の接続詞「されども」を加えているが、延慶本では助詞「ドモ」で逆接を示すのみである。巻二ではここに挙げた他に「縦ひ」1例、「されども」1例が見られた。これらは、延慶本に比べて覚一本のほうが文の関係性を明示していることを示す例である。

また、段落冒頭語に時の流れを表す語句が多かったことを受けて、文頭語においても時間に関する語句について検討したい。以下に、それぞれ時の流れを表す語句を示す。その合計数に、資料2に示した時を表す語数を足して全体の割合を出したものを( )に示す。

【覚一】|地} かくて1 其後3 さて1 さる程に10 すでに2  
次に1 先づ1 やがて2 しばしあって1 良あって4  
(28例+45例 16.4%)

|会話} さて5 すでに5 次に1 つひに1 まづ1 やがて3  
(16例+33例 10.1%)

【延慶】|地} カクテ2 カクシテ1 如此シテ2 其後4 サテ9  
已ニ2 遂ニ1 次ニ1 後ニ1 初ハ1 先ヅ1  
漸ク1 ヤガテ8 (34例+55例 12.4%)

|会話} カクテハ1 カカリシ時モ1 其後6 サテ4 暫ク2  
已・既ニ4 次ニ4 先ヅ3 ヤガテ1  
(26例+34例 6.1%)

上記の( )に示したが、時を表す語句の割合を見ると、両本とも会話部分より地の文の割合が高くなっている。このことから、第3項で見たように大きな話の流れは時間の経過を示すことで進められ、会話文において

は先に見たように事柄の関係性を示しつつ文をつないでいることが見て取れる。

なお、上に挙げた語句の中で突出して多いのが覚一本の「さるほどに」である。この語は稿末資料2に見るように、他の巻では延慶本にも多く現われており、平家物語に特徴的な語である。菅原(1995b)は延慶本に見られる「サルホドニ」を取り上げて、「編年体章段」より「紀伝体章段」に多く見られ、「話題が大きく転換する時に用いられるという特徴がある」と述べる。今、巻二に限って見てみると、「さるほどに」は覚一本に多く見られ、延慶本には一例も見られず、代わりに「サテ」が多く使われている。

例5 【覚一】 さる程に山門の大衆、先座主をとりとどむるよし、法王聞こし召して、

【延慶】 大衆、前座主ヲ奉<sub>レ</sub>取留<sub>レ</sub>之由、法王聞召テ、

例6 【覚一】 さる程に大納言のともなりつる侍共、中御門烏丸の宿所へはしり帰って此由申せば、北の方以下の女房達、声も惜しまず泣き叫ぶ。

【延慶】 サテ大納言ノ共シタリケル者共走帰テ、「大納言殿ハ八条殿ニ被<sub>レ</sub>召籠<sub>レ</sub>給ヌ。(…)」ト、アリツル有様ヲ泣々申ケレバ、北方ヨリ始テ、男女声ヲ揚テヲメキ叫。

例7 【覚一】 (…)」とぞ、やがて思ひ返されける。さて今朝のごとくに、同車して、帰られけり。

【延慶】 (…)」トゾ、ヤガテ思返サレケル。/サテ宰相ハ、少将ヲ具テ帰り給ケレバ、宰相ノ宿所ニハ、少将ノ出給ツルヨリモ、(筆者注:「/」は改行を示す。)

例5は段落の冒頭にあり、大きく場面転換している箇所である。延慶本

は接続語を用いずに話を進めている。例6も段落冒頭で場面転換をしている箇所だが、延慶本は「サテ」を用いている。例7は覚一本の段落内で使われた「さて」が、延慶本では段落冒頭にあつて場面転換の役割で用いられ、「サテ」以降に次の場面が展開していく。これらの例から、覚一本では場面転換に「さるほどに」を用いることが多く、「さて」は時間にそれほど隔たっていない場合に用いていると考えられ、延慶本では、大きな場面転換に「サテ」を用いることがあると考えられる。巻二に見られた傾向が他の巻でも見られるかどうかは検討が必要である。

以上の他に、文頭語に限らず指示語および指示詞系接続語に見られた特徴が三点あった。「しか」系の語の使用場面、「そ」系と「こ」系の交換、口語的表現である。

まず、「しかれば」「しかるを」など「しか」系の語であるが、資料2に見るように、覚一本の地の文では用いられていない。会話部分には用いられており、漢文訓読語である「しか」系の語が、武士の使う語として区別されていることが窺われる。信田（1995）では、『平家物語』（覚一本）を対象に和文系の「されば」と訓読文系の「しかれば」の使用例を調査し、「しかれば」が「地の文一例、会話文六例、文書六例と偏りをみせる」ことを指摘する。また、「会話文六例はすべて男性の公的な場での使用であり、文書の用語が会話文に混入している」という。このことは今回の調査と一致する。読み本系の延慶本では地の文にも何例か見られ、漢文訓読語として取り入れられていると思われる。

次に、「そ」系と「こ」系の語の交換現象を挙げたい。岡崎（2010）には、覚一本では「ソレ」が用いられている箇所、延慶本では「アレ」が用いられていることが指摘されているが、巻二の中では、覚一本の「そ」系の語が延慶本では「こ」系で表されている例が5例見られた。以下、簡単に例を挙げる。先に覚一本を挙げ、次に延慶本を示した。

【覚】夫、当山は（…）なり：【延】「吾山者、是（…）也」／【覚】さてそれをば：【延】抑此事ハ／【覚】其後遙かに程へて：【延】此後イト久アリテ／【覚】其につき候うては：【延】是ニ付候テモ／【覚】それよりしてぞ（…）とも名付けたる：【延】是ヨリシテ（…）名付ケタリ

但し、「ソ」系が「コ」系になる例も1例あった。（【覚】此謀反が：【延】其事）

これらは文頭語ではないものも拾ってあるが、指示語の体系も覚一本と延慶本の違いを見る手がかりになるのではないかと思われる<sup>(4)</sup>。

最後に、これも文頭語ではないが、口語的表現が覚一本にいくつか見られたので挙げておく。先に覚一本の例を挙げ、次に延慶本の例を示した。

【覚】重盛かうて候へば：【延】重盛カクテ候へバ／【覚】ともかうもならぬ：【延】トモカクモ申サメ／【覚】敦盛かうて候へば、なじかは：【延】敦盛カクテ候へバ争カ

覚一本に口語的表現が見られることは、語り本系であることにつながっていると考えられる。上の最後の例では「なじかは」という和語に対し、延慶本では「争カ」と漢文訓読語が対応していることも見て取れる。

## 5. まとめ

覚一本と延慶本を対象に、段落の冒頭語と巻二の文の文頭語を調査した結果、以下のことが認められた。

覚一本では、前段の内容を受けながら時の経過を示すことで文章が展開

(4) 佐藤武義は、『今昔物語集』における談話一視点を中心に一（1995『日本語学』14巻2号）で『今昔物語集』の特に天竺震旦部でコレ・コノ系の指示語が「敬意を払う必要のない者、身内の意識や親近感のもてる者」に用いており、ソノ系は「敬避・疎遠な人物」に関わることを指摘する。『平家物語』においてもコレ系とソレ系の使用の差がある可能性があるだろう。

しており、因果関係や逆接関係など事柄の論理関係は大きな文章の流れには現れていない。因果関係や逆接を示す語句は会話文に現れやすく、このことは、読み本系の延慶本より語り本系の覚一本に多く見られることに関わりがあると思われる。覚一本巻二の文頭語からは、延慶本と比較して、接続詞（「縦ひ」「されども」等）を用いて文の関係を明確にする傾向が見られる。また、「さる程に」という『平家物語』に特徴的な文頭語は、覚一本巻二においては大きな場面転換を表しており、延慶本巻二では「サテ」が場面転換の語として用いられている。同じ語でも諸本により用法の相違があることが窺われる。このことは指示語にも当てはまり、覚一本巻二では「ソ」系の語が延慶本巻二では「コ」系の語に換わっている例がいくつか見られた。漢文訓読語という点で付け加えると、「しか」系の語は覚一本巻二では会話にしか見られず、武士が使用する語として区別されていたと思われる。また、覚一本には口語的表現が用いられており、読み本系とは異なる語り本系の特徴が見られた。

以上は段落冒頭語と文頭語から見た特徴であり、今後は巻二以外の巻を調査すること、各本の文章中の文体差と文の展開との関連を検討することが課題である。

#### 【引用・参考文献】

- 岡崎友子（2010）『日本語指示詞の歴史的研究』ひつじ書房
- 岡崎友子（2011）「指示詞系接続語の歴史的研究—中古の「カクテ・サテ」を中心に」『日本語文法の歴史と変化』（青木博史編）くろしお出版
- 来田 隆（1988）「院政鎌倉時代における片仮名文の接続詞」『鎌倉時代語研究』11 輯
- 佐藤武義（1968）「平家物語と漢文訓読語—今昔物語集との比較を中心に—」『国語学研究』8号
- 信田知子（1995）「『平家物語』における談話」『日本語学』14巻2号
- 菅原範夫（1993）「延慶本平家物語の接続詞」『鎌倉時代語研究』16輯
- 菅原範夫（1995a）「覚一本平家物語の接続詞」『広島女子大学文学部紀要』30号

菅原範夫 (1995b) 「延慶本平家物語の地の文の展開—接続詞の用法に注目して—」  
『鎌倉時代語研究』18輯

西田隆政 (2012) 「『玄奘三蔵絵』詞書における指示語「かくて」—和文系語彙と漢  
文訓読語彙の併用の観点から—」『甲南国文』59号

西田直敏 (1990) 『平家物語の国語学的研究』和泉書院

濱千代いづみ (2007) 「『平家物語』における「さて」の用法」『岐阜聖徳学園大学  
国語国文学』26号

藤井俊博 (2009) 「文章表現の歴史」『日本語表現学を学ぶ人のために』世界思想社

資料1 段落の冒頭語 (数字は用例数を示す。以下同じ。)

	覚 一 本	延 慶 本
卷一	<p>&lt;日時&gt;7/&lt;指示語&gt;此の1 彼の1 其の3/&lt;指示詞系&gt;是によって1 かくて5 かりし程に1 其上1 其後1 さて1 さる程に7 しかるを1/&lt;副詞&gt;既に1 抑も1 又1/&lt;その他&gt;31</p> <p>計64</p>	<p>&lt;日時&gt;29/&lt;指示語&gt;此ノ3 彼ノ3 其ノ4/&lt;指示詞系&gt;是ニモ憚ラズ1 カクテ2 カカル程ニ1 カカリシ程ニ1 加様ニ2 其後3 サテ7 サテコソ1 サテモ2 サル程ニ7 サレバ2/&lt;副詞&gt;既に2 惣ジテ1 抑3 次ニ1 中ニモ1 就中1 又1 ヤガテ2/&lt;その他&gt;50 計131</p>
卷二	<p>&lt;日時&gt;12/&lt;指示語&gt;此の1 是は2 ここに1/&lt;指示詞系&gt;かくて1 其後2 さてもあるべきならねば1 さる程に8/&lt;その他&gt;39</p> <p>計67</p>	<p>&lt;日時&gt;21/&lt;指示語&gt;此ノ3 是ヲ1 彼ノ2/&lt;指示詞系&gt;カクテ2 其後3 サテ3 サテモ3 サレドモ1 サリトテ1/&lt;副詞&gt;抑1 又3 先ヅ1 漸1 ヤガテ2 良久クアリテ2/&lt;その他&gt;69 計119</p>
卷三	<p>&lt;日時&gt;13/&lt;指示語&gt;この1 其の2 それ1/&lt;指示詞系&gt;かりし程に1 かりしかども1 さて2 さる程に7/&lt;副詞&gt;既に1 すべて1 抑も2 又2 やがて1/&lt;その他&gt;25</p> <p>計60</p>	<p>&lt;日時&gt;32/&lt;指示語&gt;此ノ7 彼ノ1 カカル2 其ノ1 ソレ1 ソコ1/&lt;指示詞系&gt;カクテ3 カカリシ程ニ1 カカリケル間1 サテ5 サテモ2 サル程ニ4/&lt;副詞&gt;凡ソ1 已ニ1 惣ジテ1 抑4 次ニ1 中ニモ1 又1 良久クアリテ1/&lt;その他&gt;63 計135</p>
卷四	<p>&lt;日時&gt;19/&lt;指示語&gt;此の2 これ1 ここに2 その1 それ1/&lt;指示詞系&gt;これにつけても1 かりけるところに1 さるほどに3 しかればすなはち1/&lt;副詞&gt;抑も2 たとへば1 又1/&lt;その他&gt;21</p> <p>計57</p>	<p>&lt;日時&gt;41/&lt;指示語&gt;此ノ7 此レ1 爰ニ5 カノ1 加様ニ1 其ノ2/&lt;指示詞系&gt;此上1 カカリケレバ1 其上1 其後2 サテ5 サテモ5 サル程ニ4 サレバ1 サレバニヤ1 而ル間1 而ヲ1/&lt;副詞&gt;惣ジテ1 抑6 中ニモ1 就中1 又3 先ヅ1/&lt;その他&gt;100 計194</p>
卷五	<p>&lt;日時&gt;13/&lt;指示語&gt;この1 彼の1 其の1/&lt;指示詞系&gt;さる程に7 さりながら1 しかるを1/&lt;副詞&gt;抑も1 なかにも1 又5/&lt;その他&gt;22</p> <p>計54</p>	<p>&lt;日時&gt;28/&lt;指示語&gt;此ノ1 爰ニ2 彼ノ1 カカル1 如此1 其ノ5 此ニモ限ラズ1 依之1 カクテ3 カヤフニ1 カク云程ニ1 其上2 其後3 サテ8 サテモ2 サル程ニ12 而ニ1/&lt;副詞&gt;シバラクアリテ2 抑2 時ニ1 又4/&lt;その他&gt;73 計156</p>

	覚 一 本	延 慶 本
卷六	<p>〈日時〉26／〈指示語〉此の2／〈指示詞系〉かくて1 其後1 さて1 さてこそ1 さてもあるべきならねば1 さる程に5／〈副詞〉凡そは1 ただし1 中にも1 又2 やがて2／〈その他〉45</p> <p>計61</p>	<p>〈日時〉57／〈指示語〉此ノ6 爰ニ1 彼ノ1 カカル1 加様ニ2 其ノ4／〈指示詞系〉是ノミナラズ1 カクテ3 カカリシ程ニ1 カカリケレバ1 其後2 サテ3 サテモ3 サテシモ1 サル程ニ8 サレバ3 而ル間1／〈副詞〉凡ソ1 己ニ1 抑3 但シ1 又10 漸ク1 ヤガテ1／〈その他〉53</p> <p>計170</p>
卷七	<p>〈日時〉16／〈指示語〉此の2 ここに1 彼の2／〈指示詞系〉其後1 そこにて1 さて1 さる程に6 されば1／〈副詞〉或は1 抑も1 次に1 又2 まづ1／〈その他〉26</p> <p>計63</p>	<p>〈日時〉46／〈指示語〉此ノ5 爰ニ1 彼ノ3 カク2 カカル2 其ノ4／〈指示詞系〉カカリケレバ2 カクテアルベキナラネバ1 其後1 サテ1 サテモ1 サル程ニ8／〈副詞〉シバラクアリテ1 既ニ1 抑6／〈その他〉86</p> <p>計172</p>
卷八	<p>〈日時〉17／〈指示語〉彼の1／〈指示詞系〉さる程に6／〈副詞〉凡そ1 中にも1／〈その他〉28</p> <p>計54</p>	<p>〈日時〉25／〈指示語〉此ノ4 彼ノ2 加様ニ1 其ノ2／〈指示詞系〉此上1 此後2 是ノミナラズ2 カクテ2 カカリシ程ニ1 其後2 サテ3 サテモ4 サレバ3 サレドモ3 サル程ニ4 サリケレドモ1／〈副詞〉惣ジテ2 抑2 又1 ヤガテ2／〈その他〉82</p> <p>計152</p>
卷九	<p>〈日時〉13／〈指示語〉此の3 かく1 其の1／〈指示詞系〉是をはじめて1 さる程に4／〈副詞〉凡そ1 しばしあって1 又1／〈その他〉42</p> <p>計68</p>	<p>〈日時〉15／〈指示語〉此ノ3 爰ニ5 カク1 其ノ4 可然1／〈指示詞系〉カクテ1 カク云ホドニ1 カカル処ニ1 カカリケル所ニ1 カカリケレドモ1 其後3 サテ4 サテモ1 サルホドニ15 サルママニハ1 シカルアヒダ1／〈副詞〉己ニ1 猶1 又2／〈その他〉89</p> <p>計153</p>
卷十	<p>〈日時〉15／〈指示語〉是を1／〈指示詞系〉さて1 さる程に9 されども1／〈副詞〉やうやう1／〈その他〉25</p> <p>計53</p>	<p>〈日時〉36／〈指示語〉此ノ2 是2 爰ニ1 彼ノ2 其ノ1 其レ1／〈指示詞系〉依之1 カクテ1 カカリケレバ1 其後2 サテ4 サテモ1 サル程ニ1 サレバ1／〈副詞〉抑8 中ニモ1 又1 先ヅ1／〈その他〉43</p> <p>計111</p>
卷十一	<p>〈日時〉17／〈指示語〉この1 ここに1／〈指示詞系〉かくて1 其後1 さる程に9／〈副詞〉凡そ1 すでに1 抑も1 やうやう1／〈その他〉34</p> <p>計68</p>	<p>〈日時〉29／〈指示語〉此ノ4 是ヲ1 彼ノ3 カク1 其ノ3／〈指示詞系〉是ノミナラズ1 爰以1 カカルホドニ1 カカリケレバ1 カヤウニシテ1 其後1 サテ3 サテモ2 サテシモ1 サル程ニ6／〈副詞〉スデニ1 抑2 又1／〈その他〉102</p> <p>計165</p>
卷十二	<p>〈日時〉9／〈指示語〉此の1 ここに1／〈指示詞系〉かくて1 さてもあるべきならねば1 さる程に9／〈副詞〉中にも1／〈その他〉20</p> <p>計43</p>	<p>〈日時〉26／〈指示語〉此ノ5 彼ノ3 其ノ4／〈指示詞系〉是ノミナラズ2 カクテ1 カカリケレバ2 其後5 其ヨリ1 サテ4 サテモ4 サテモアルベキナラネバ1 サル程ニ5 サレバトテ1 サアル程ニ2 サルニテモ1／〈副詞〉既ニ2 次ニ2 抑3 又3 良シバラク有テ1／〈その他〉87</p> <p>計185</p>

資料2 卷二の文頭語

【覚一本】

地の文 計446

場所22 時45 人物149 形容7 感動5 疑問詞1 その他副詞13 その他93
〈指示語〉 これ7 この10 ここ6 これら1 かかる1 かれ1 かの3 あの1 その17 さ2
〈指示詞系〉 これによって3 かくて1 かるがゆゑに1 其後3 それよりしてぞ1 それよりしてこそ1 さて2 さてこそ1 さても1 されば2 さらばにや3 されども6 さりながらも2 さらぬだに1 さる程に10 さてもあるべきならねば1
〈接続詞的〉 剩へ1 凡そは1 すでに2 則ち2 喩へば1 次ニ1 時に1 猶1 まして1 又1 先づ1 若し1 もとより1 やがて2 仍て1 しばしあって1 良あって4

「 」部分 計486

場所13 時33 人物67 形容15 感動29 疑問詞25 その他副詞34 その他115
〈指示語〉 これ15 この8 ここ3 こは3 これ程の3 これら1 かれ4 かの2 からうに2 かやうの3 あれ1 あの1 それ7 その6 さ8
〈指示詞系〉 此後も2 こをもつて1 其故は1 其儀ならば3 其儀にて候はば1 其上(は)2 それに2 さて5 さても2 さては2 さらば4 さらむにとつては1 されば6 さればこそ2 さればとて1 されども4 さりとも1 さりとては1 さりながらも1 さるにても2 さ候はば1 しかるを1 しかれば2 しかれども2 しからずは1 しかのみならず1 ともかうも1
〈接続詞的〉 何に況んや2 すでに5 せんずる所1 抑も4 但し2 縦ひ7 喩へば1 次に1 つひに1 なかにも1 就中2 まづ1 又2 若し3 本より1 やがて3

【延慶本】

地の文 計717

場所33 時55 人物206 形容20 感動3 疑問詞7 その他副詞24 その他190
〈指示語〉 此・是21 此ノ14 カク2 カカル3 カレ7 彼ノ6 カシコ1 加様ニ3 其レ2 其ノ28 サ3
〈指示詞系〉 是ヨリシテゾ1 此事ニヨリテ1 依之3 是ノミナラズ1 カクテ2 カクシテ1 カカリケレバニヤ1 如此シテ1 其ヨリ1 其後4 其上1 其ニ1 其故ハ1 サレバ2 サレバトテ1 サレバニヤ1 サレドモ5 サラヌダニ1 サリトモ1 サテ9 サテモ3 サテモ有ベキナラネバ1 サルニ付テモ1 然レドモ1 而ル間1
〈接続詞的〉 或ハ4 況ヤ1 所詮1 已ニ2 則チ1 抑2 縦1 遂ニ1 次ニ1 中ニモ1 猶2 後ニ1 初ハ1 又12 先ヅ1 元ヨリ1 漸1 ヤガテ8 暫アリテ1 良久クアリテ4



「 」部分 計988

場所36	時34	人物163	形容39	感動31	疑問詞43	その他副詞55	その他331
〈指示語〉	此・是20	此ノ20	爰・是ニ2	是程3	コ(ハ)8	是等1	カク2 カカル2 彼2 彼ノ7 加様ノ2 加様ニ4 アレ1 アレ程1 アノ1 其レ4 其ノ10 サ7 サル1
〈指示詞系〉	依之4	以是1	於是者1	是ニ付テモ1	是ニ付候テモ1	此上ハ1	カカリシカバ1 カクテハ1 カクテモ1 カカリシ時モ1 其上3 其後6 其儀ナラバ1 其ヨリ1 其ヨリシテ1 夫ニ3 サテ4 サテハ2 サテモ2 サルニテモ2 サラバ5 サレバ19 サレバコソ1 サリトモ3 サレドモ4 サラムニ取テハ1 然ル間1 シカラズトモ1 雖然2 然者1 而ニ1 而ヲ3 而ドモ4 シカモ1 如之1 是ト申、彼ト云1 トモカクモ1
〈接続詞的〉	何ニ況ヤ3	況ヤ1	凡1	且ハ4	更ニ1	暫ク2	既・已ニ4 所詮1 惣テ1 抑6 但6 縦2 次ニ4 中ニモ1 就中ニ3 猶(モ)3 マシテ1 又8 先3 若5 尤1 元ヨリ2 ヤガテ1 所以・故ニ3 ヨモ1